



平成 22 年 2 月 5 日

各 位

会 社 名 株式会社ゼロ
 代表者名 代表取締役社長 岩下 世志
 (コード番号 9028 東証第二部)
 問合せ先 取締役経営企画部長 北村 竹朗
 (TEL . 044 - 520 - 0106)

第 2 四半期累計期間の業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 21 年 8 月 7 日に公表した平成 22 年 6 月期第 2 四半期連結累計期間(中間期)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 第 2 四半期連結累計期間業績予想数値の修正(平成 21 年 7 月 1 日～平成 21 年 12 月 31 日)

	売 上 高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	百万円 25,800	百万円 250	百万円 220	百万円 0	円 銭 0 00
今 回 修 正 予 想 (B)	25,277	164	211	0	0 02
増 減 額 (B - A)	523	86	9	0	0 02
増 減 率 (%)	2.0	34.4	4.1		
(ご参考)前年同期実績 (平成 21 年 6 月期第 2 四半期)	25,767	312	295	255	14 80

(注)上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる可能性があります。

2. 修正の理由

昨春より集中的に取り組んでおります固定費削減をはじめとする収益構造改革は順調に進んでおり、営業利益は黒字化して改善する見込みであります。大変遺憾ながら、以下の理由により予想値は前回の公表数値を下回る見通しとなりました。

(1)輸送事業の受注台数減少

当第 2 四半期連結累計期間におきましては、昨年春に導入されましたエコカー減税等の政策により国内向けの新車へ需要がある程度偏ることは織り込んでおりましたが、リーマンショックのあった前年同期以上に中古車の需要が落ち込み、その規模は想定を超えるものでありました。また、主要取引先であります日産自動車の輸出が落ち込み、それに伴う国内の輸送も減少いたしました。

(2)カーセクション事業の出品台数減少

エコカー補助金制度(スクラップインセンティブ制度)の導入は「低年式・多走行」車を中心に取り扱う当社の中古車入札会事業に想定以上のインパクトを与えました。同制度の施行により、本来ならば出品されるはずの低年式車の多くが廃車に回り、出品台数が計画を下回りました。

3. 通期の業績予想について

通期の業績にも上記のような環境要因によるリスクはありますが、当社グループの収益構造は改善の途上にあり、当第 1 四半期(平成 21 年 7 月～平成 21 年 9 月)から当第 2 四半期(平成 21 年 10 月～平

成21年12月)にかけての業績推移からその一定の成果を確認いたしました。今こそ当社の基盤を安定させ、次の成長へ向けた強い企業体質作りための重要な局面であると認識しております。「業務のシンプル化」による間接業務の効率化と合理化。「輸送納期の短縮」によるお客様の信頼獲得と顧客層の拡大。これらを重要課題として構造改革を加速させることにより、十分に通期の業績予想はクリアできる範囲であると判断し、変更いたしません。

以上